

# 机邊だより

倉橋惣三

## ○心理學の参考書に就て

心理學の研究に、如何なる書物を読んだが適當かといふことは、會員方から屢々受ける質問であります、依つて、茲にざつと乍らお答へをして置かうと思ひます。但し心理學に關係ある邦語出版物も數に於て随分多いことでありますから、其の一人に就て綿密な撰擇といふことは容易でありません。又それまで嚴格な意味に於ての紹介をする譯では全くありませんので、只思ひついたまゝを少し許り擧げるに過ぎません。それも亦一般の讀者の方の御参考の爲で、何も學問的に其の書の價値をどうこうといふのではないことは、明かにお断り致して置きます。

先づ、どなたにでも御勧めしたいのは、文學士速水瀧氏著「心理學」(博文館、並)であります。帝國百

科全書中の一編となつて居りますから、頁數も三百頁許り、定價も極く廉になつて居りますが、内容は獨逸流の構成學風と米國流の機能學風と穩健に融和し、文章も明瞭簡潔、初學の方が新しい心理學の一般知識を得らるゝに便なると共に、多少高い標準から言つても大に有益な著述であります、殊に眞面目に心理學の一般知識を得られようとなさる方々は、徒に頁數の多い大冊子を讀まるよりも、斯かる簡潔な、しかも含蓄の多い書物を熟讀研究せらるゝが利益だと思ひます。

次に、若し速水氏の著を讀んで、まだ抽象的に感ぜらるゝ方は、高島平三郎氏著「應用心理講話」(同文館、定價)を御覽になつたらよいと思ひます。著者の熟練なる説明は、理路干燥になり易い心理學を通俗に解し易き實例を以て、興味多く説述せられてあります。それから、速水氏の著から、もう少し理論的に立入らうとなさる方は、文學博士元良勇次郎氏著「心理學綱要」(弘道館、定價壹圓)をお讀みにな

るが順でありませう。尤も、此の書も、講習會に於ける速記をもとにされたもので、頁數も二百五十頁許り、敢て専門的の著述といふのではなく、一般心理學に就て平易に説かれてあるのでありますが、若し心理學を初めて讀むといふ方には、前二書よりは自然程度が高いかと思はれます。尙ほ本年は、同博士の大きい心理學書が多分出版される由に聞いて居りますが、それが出ましたらば、恐らく邦語心理學書中の最も程度の高いものと思ひます。それを研究する前に、此の「綱要」を讀んで置くことは順序でありませう。

それから、極く近頃の新しい出版を二三御紹介しますれば、文學士風見謙次郎氏譯「ロイス氏心理學」(成美堂、定價)と、文學士上野陽一氏譯「機能主義心理學講義」(同文館、定價)とは昨年心理學界に於て歡迎すべき二好譯書であります。前書の原著者は米國ハーヴァード大學教授ジョサイア、ロイス氏、後書の原著者は同シカゴ大學教授エンジ

エル氏で、兩書とも、米國に於て出版された心理學書中有名なるものであります。兩書とも、從來我邦にある心理學書とは違つた流義の著述で、夫々特色のある書物であります。其の中ロイス氏は、氏が元來哲學者だけに、編述の立て方が獨特の見解を持つて居て、専門的にも餘程考へさせる處があります。エンジェル氏は所謂シカゴ派中の錚々たる人で、ヂユウエー氏など、共に獨逸のヴント氏一派の心理學說に對抗し、専ら精神を機能的に研究説明しようとするのであります。而して特に此兩書に就て御紹介する必要のあることは、兩書ともに其の研究の特色の自然の結果として、精神の發達の説明に重きを拂つてあることとあります。此の點は他の一般心理學書よりも、我會員諸君の興味をひく處と思ひます。

次に心理學内の各部門の著述は、其の數に於て未だ極く僅であります。變體心理の方面に於ては、文學博士福來友吉氏著「催眠心理學概論」(成美堂、

五十)が一般の方に便利でありませう。教育心理學の方面では、文學博士福來友吉氏譯「教育心理學講義」(定價一圓)は、ゼームス氏の名著を譯されたもので、此種の書中最も有益なるもの、一つであります。實験心理學の方面では文學士野上俊夫氏同 上野陽一氏共著「實験心理學講義」が最も新しいもので、難解に陥り易い此の學問が、極めて巧みに平易に述べてあります。尙ほ本年中には文學士大槻快尊氏の此の方面の一層程度の高い好著が出版さるゝ筈であります。序に一言して置きます

が、實験心理學は心理學の新らしい研究法たるのみならず、近來教育の重要な一參考として大關係を有する様に益々なつて居るのであります。一般心理學の書を讀まるゝと共に此方面も必ず併せ窺ふことが必要であります。又此方面の讀者の好參考として、近頃東京文科大学心理學教室編纂「實験心理寫真帖」(一圓六十錢)が出版されて居ります。次に意志の研究としては文學士本庄精次氏著「意

志の心理と其教育法」(定價七十五錢)があり、感情の研究としては文學士源良英氏著「憤怒及復讐の心理的研究」(目録書店 定價二圓三十錢)があります。前書が教育上重要な問題たるは勿論、後書にも兒童の憤怒及復讐に關する新研究があつて、教育保育上の參考となること少くありません。尙ほ心理學に關する

短編集としては文學博士元良勇次郎氏著「論文集」(弘道館、定價)及心理學通俗講話會編輯「心理學通俗講話」(不同、凡三四十錢)があります。最後に、皆さんに最も關係の近い兒童心理學の方面に移りますが、此方面には未だ之れといふ大著述を得ません。其中で一頭地を抜いて居るのは、矢張り元良、中島兩博士、速水、青木兩學士譯「青年期の研究」(同文館)であります。此書は米國スタンレー、ホール氏の大著述を抄譯したものであります。一般兒童心理學としては日田權一氏譯「兒童研究の原理」(目録書店 定價一圓六十錢)を最もお勧めすべきであります。此の書は米國カークバトリック

氏の原著を譯したもので、特に専門的の著述といふではありませんが、児童心理學の大體に廣く行つて、手際よく種々の問題に觸れて居る度が特長であります。たゞ此の著者の本能といふ語が最廣い範圍にまで擴げられて居る處は、専門的には議論の起り得る點ではありませんが、邦語の児童心理學書としては恐らく最も實のあるものでありませう。次に高島平三郎氏著「児童心理講話」(堂二圓)は極く通俗的に大體を解り易く説いてあります。文學士松本孝次郎氏著「児童心理學」(博文館並)の初めの數章は児童研究の歴史及方法の概要を知るに於て邦語の著書中最便利であります。又同氏著「實際的児童學」(同文館)及び富永岩太郎氏著「児童心身の發達」(同文館)は、いづれも實際的教養上の參考を主として説いてあります。尙ほ五十嵐力氏著「児童研究」(定價一圓)は米國テイラー氏の著によつたもの、多市松氏著「子どもの研究」(定價七十錢)は英國サリー氏の著(Children's Way)

によつたものでてります。それから桑田孔治氏譯「児童心理學」(富山房發兌)は児童の四つの氣質に関するヘルキヒ氏の著を親切に譯されてあります。此他児童のことに就ては日本児童研究會發行「児童研究」(毎月一回)が醫學的其他的方面の研究と共に心理學研究の新しい參考を供して居ります。

### ○ピー、エス、ヒル氏

#### 「幼稚園の唱歌」

去年十二月の「幼稚園評論」に、ヒル氏は米國に於ける幼稚園唱歌の發達の歴史を叙した末に、幼稚園に於ける音樂問題に關し、次の如き概論を試みて居る。

(一)幼稚園に於ける音樂使用の過度は慎むべきことだ。而して其の弊害は二つの結果にあらはれる。(イ)餘りに絶えず音樂が用ゐられて居ると、幼兒は、音樂に對する注意力を却つて失ふ様になる。遂にはピアノの響も、歌の聲も、無味單調にな